第2次

「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」

(後期計画)

意見書

令和7年2月13日

宇都宮市子ども・子育て会議

1 施策に関する意見

(1) 計画の基本的な考え方について

- ・ 「宮っこを守り・育てる都市宣言」の制定を踏まえ、地域社会全体で子どもを守り・育てていく機運の醸成や行動の実践を促すため、「子ども・若者への意見聴取の強化」や「共に支え合う地域づくりの推進」など、事業の充実を図り、宣言の理念の実現を目指す計画とすること。
- ・ 子どもや子育て家庭を取り巻く環境が変化する中、様々な分野が密接に連携し、効果的・効率的に施策を推進し、子どもの最善の利益や結婚、妊娠・出産の希望をかなえる社会等を実現すること。
- ・ 子ども分野全体に係る課題である「少子化対策」、「子どもの貧困対策」、「相談支援体制」の3つについては、全体にかかるものとして横串を通して整理するとともに、子ども、子育て家庭に関連するより実効性の高い施策・事業を分野横断的な観点から検討し、これまで以上に全方位的に充実させていくこと。

(2) 子ども・若者からの意見聴取及びプランへの反映について

- ・ 子どもたちをカテゴリーで区切り、特定施設からの意見を吸い上げるだけでなく、幼稚園や保育園、小学校、中学校など様々な機関や施設と協力し、「ひとりでも多く」の子どもから、幅広く、多様な意見を聴取しながら、課題の整理や施策・事業の検討を行うこと。
- ・ 子ども・若者の意見は、こどもまんなか社会の実現に向け、大変重要なものであることから、アンケートによる統計的な数値から把握するだけでなく、子どもたちが安心して過ごすことのできる環境において、直接、子どもたちから意見を聞くなど、子どもたちの「本音」についても聴取すること。

(3) 基本施策の推進について

- ・ 本計画に直接の記載がない障がい児・者や教育などの分野については、各分野の計画の中で詳細を整理しているが、関連する分野の計画間で整合を図るなど、十分に連携を図ること。
- ・ 社会における、「子どもの権利」の重要度についての認識不足や、自らの意見を発言することに対してネガティブに考える子どもたちがいる現状を踏まえ、施策・事業の拡充を行うこと。
- ・ 「仕事と生活が調和した社会づくり」を実現するため、企業や地域に対して、不妊治療中の社員が会社を休みやすくする環境の構築を呼びかけするなど、これまで以上に、「こどもまんなか社会」の実現に向けた働きかけをしていくこと。
- ・ 0歳～5歳児や障がい児など声を上げにくい子どももいることから、施策事業の推進においては、各所で保有するデータを連携させて実態を把握するなど、デジタルの活用を検討すること。

- ・ 目標指標や目標値の設定に当たっては、これまでの実績値や、今後の施策事業の効果を見込むとともに、市民にとって分かりやすい指標・目標値を設定すること。

(4) 計画の推進体制について

- ・ 「宮っこを守り・育てる都市宣言」の制定を踏まえ、家庭をはじめ、企業、地域など子育て・子育てに関わる一人ひとりが本計画の役割を認識し、主体的に計画を推進できる体制とすること。
- ・ 本計画は児童福祉や母子保健、青少年健全育成など幅広い分野に施策・事業がわたるため、宇都宮市の関係部局が横断的に取り組むとともに、外部の関係機関との連携を密に図りながら、効果的・効率的に計画を推進できる体制とすること。
- ・ 計画を着実に推進するため、子ども・若者の意見を聴きながら、進捗状況や評価結果を共有するとともに、情報を公開し、市民からの意見を募るなど、必要に応じて事業の改善が図られる体制とすること。

2 第2次「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」（後期計画）への意見の反映と計画の推進について

- ・ 上記の意見を反映した第2次「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」（後期計画）が計画的かつ効果的に推進され、基本理念である『すべての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく、夢や希望をもって心身ともに健全に成長できるとともに、すべての子育て家庭が安心して子どもを産み育てることができる「子育て・子育ての未来都市うつのみや」』を地域社会が一体となって実現すること。
- ・ また、計画の推進にあたっては、子ども分野に係る3つの課題である、「少子化対策」、「貧困対策」、「相談支援体制」について、これまで以上に分野横断的に取組を強化するとともに、引き続き、様々な機会を通じてあらゆる分野の施策について子どもたちからの意見を聴取し、最大限反映させながら、取り組んでいくこと。